

第 1 回 藤塚地区にぎわいづくり検討会資料

— 目次 —

- 1. かわまちづくりの制度について 1
- 2. 藤塚地区かわまちづくりのアイデア 4
- 3. かわまちづくりの参考事例 5



2021/10/30撮影


1.1 かわまちづくり事業とは

かわまちづくり事業の概要（「かわまちづくり計画策定の手引き」より）

- 「かわまちづくり」とは、『**河川空間とまち空間が融合した、良好な空間形成を目指す取り組み**』のこと。「かわ」が有する地域特有の魅力を活かし、「まち」と一体となったソフト施策やハード施策を実施することで、水辺空間の質を向上させ、**地域の活性化や地域ブランドの向上**などが実現できる。
- かわまちづくりには河川管理者が支援する制度がある。推進主体は「かわまちづくり計画」を河川管理者と共同で作成し、河川管理者は支援制度に登録された当該計画に基づき、必要なソフト施策・ハード施策の支援を行う。**推進主体は、1. 市町村、2. 市町村及び民間事業者、3. 市町村を構成員に含む法人格のない協議会**、いずれかに該当するもの。


その1 「かわ」と「まち」の新たな可能性(地域資源)の発見・発掘につながる

今まで気づかなかった、あるいは埋もれていた地域資源を発見・発掘し、「かわまちづくり」のみならず様々な場面で活用できるヒントを得ることができます。




その2 関係主体のネットワーク形成につながる

市町村や河川管理者のみならず、地域住民や民間事業者、関係団体など、異なる分野の多様な主体による合意形成や各種調整を行うため、関係主体の顔が見えるネットワークの形成につながります。




その3 地域の将来像の共有につながる

自分たちの地域がどのようにあるべきかを繰り返し議論することで、関係者間での「かわ」と「まち」を含めた地域の将来像の確立と共有につながり、目標に向けた課題への対応等を一致団結して推進しやすい環境が形成されます。




その4 資金の確保につながる

多様な主体による合意形成を伴うため、地域の重要な施策として位置づけられるとともに、事業の確実性が増し、予算の確保をしやすく、また助成や寄付が受けやすくなります。




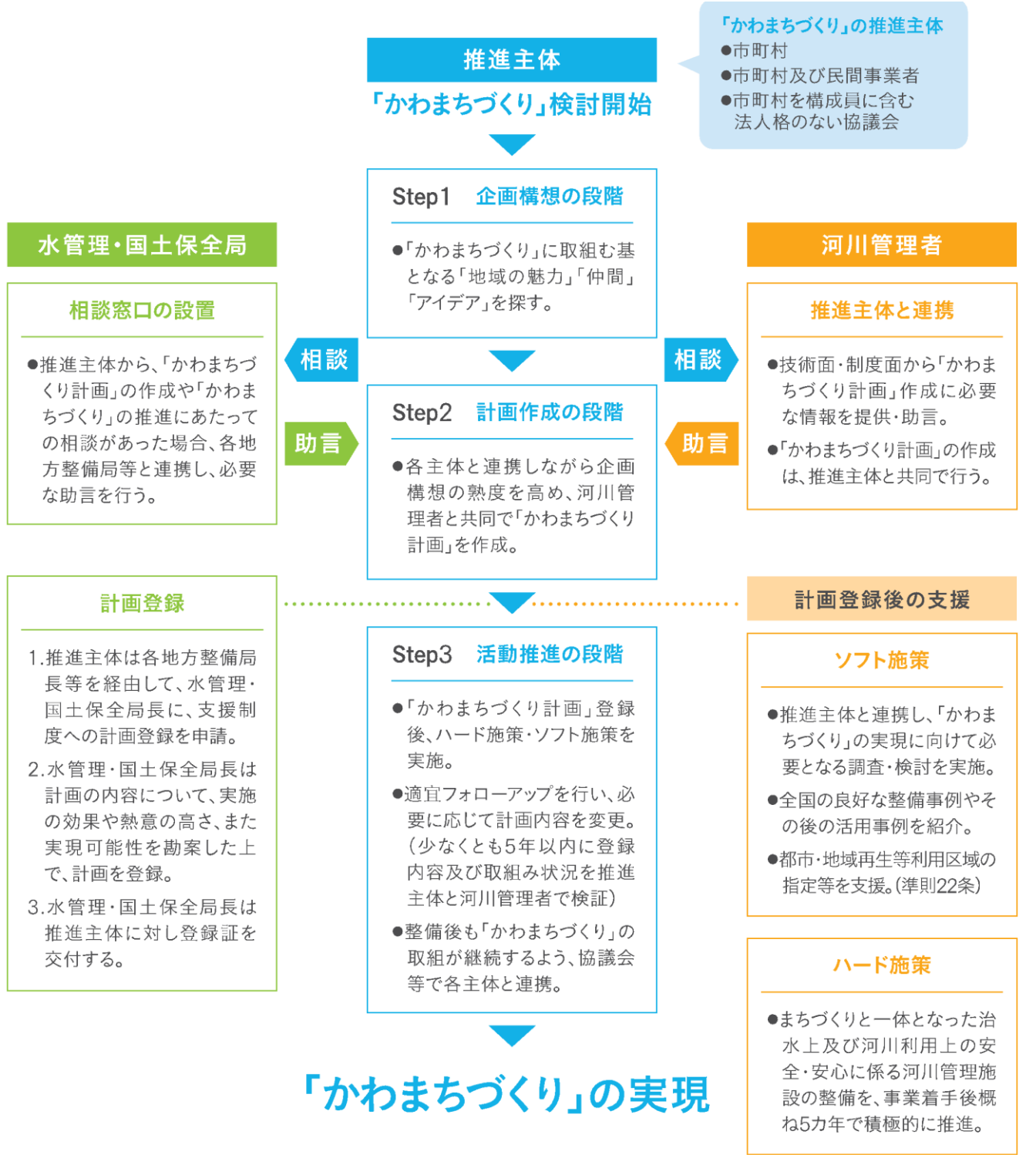
その5 地域の課題解決につながる

市町村や河川管理者、また地域住民や民間事業者等の各主体が相互理解と共通認識を持ち、また互いに連携しやすくなるため、地域の様々な課題解決につながります。



その6 地域のシビックプライドの醸成につながる

地域住民一人ひとりが「かわまちづくり」に参加することで、地域に対する「愛着」や「誇り」を醸成することが期待されます。

用語
シビックプライド・・・「シビック(市民の/都市の)」と「プライド(誇り)」を合わせた言葉で「都市に対する市民の誇り」のこと。

1.2 かわまちづくり事業を用いた整備のメニュー

かわまちづくり事業で国土交通省が整備可能な施設（主にハード面）

- 河川管理者は、支援制度に登録された「かわまちづくり計画」に基づいて、推進主体の柔軟な提案・発想を尊重し、調査・検討や情報提供、占用許可のノウハウの提供といったソフト施策と、河川管理施設を整備するハード施策を積極的に行う。
- ソフト対策：必要となる調査・検討、良好な事例等の情報提供、河川空間のオープン化に伴う占用許可のノウハウ提供など。
- ハード対策：環境事業による河川管理施設の整備が可能。整備後の施設に許可工作物を組み合わせることで、多様な利活用が可能となる。

- 例えば、
- ・堤防沿いの階段、坂路整備 ⇒ 「かわ」と「まち」をつなぐ導線
 - ・側帯による天端拡幅整備 ⇒ 桜並木や公園等として活用可能
 - ・河岸沿いの親水護岸、階段護岸整備 ⇒ 船着き場、リバーアクティビティの発着場として利用
 - ・高水敷整正 ⇒ 公園、駐車場など多目的広場として利用



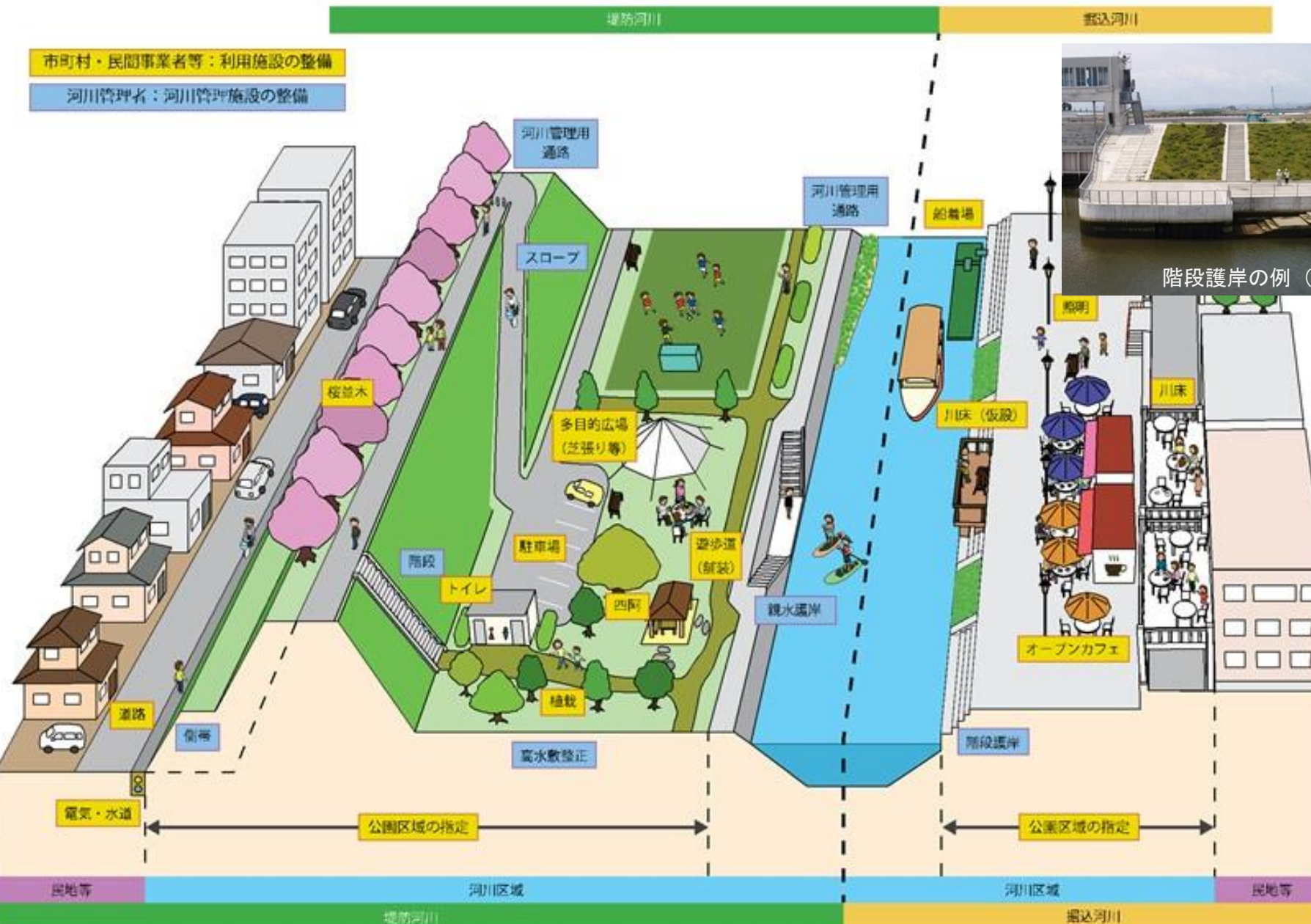
天端舗装、側帯整備の例（閉上）



階段護岸の例（閉上）



高水敷整正の例（閉上）



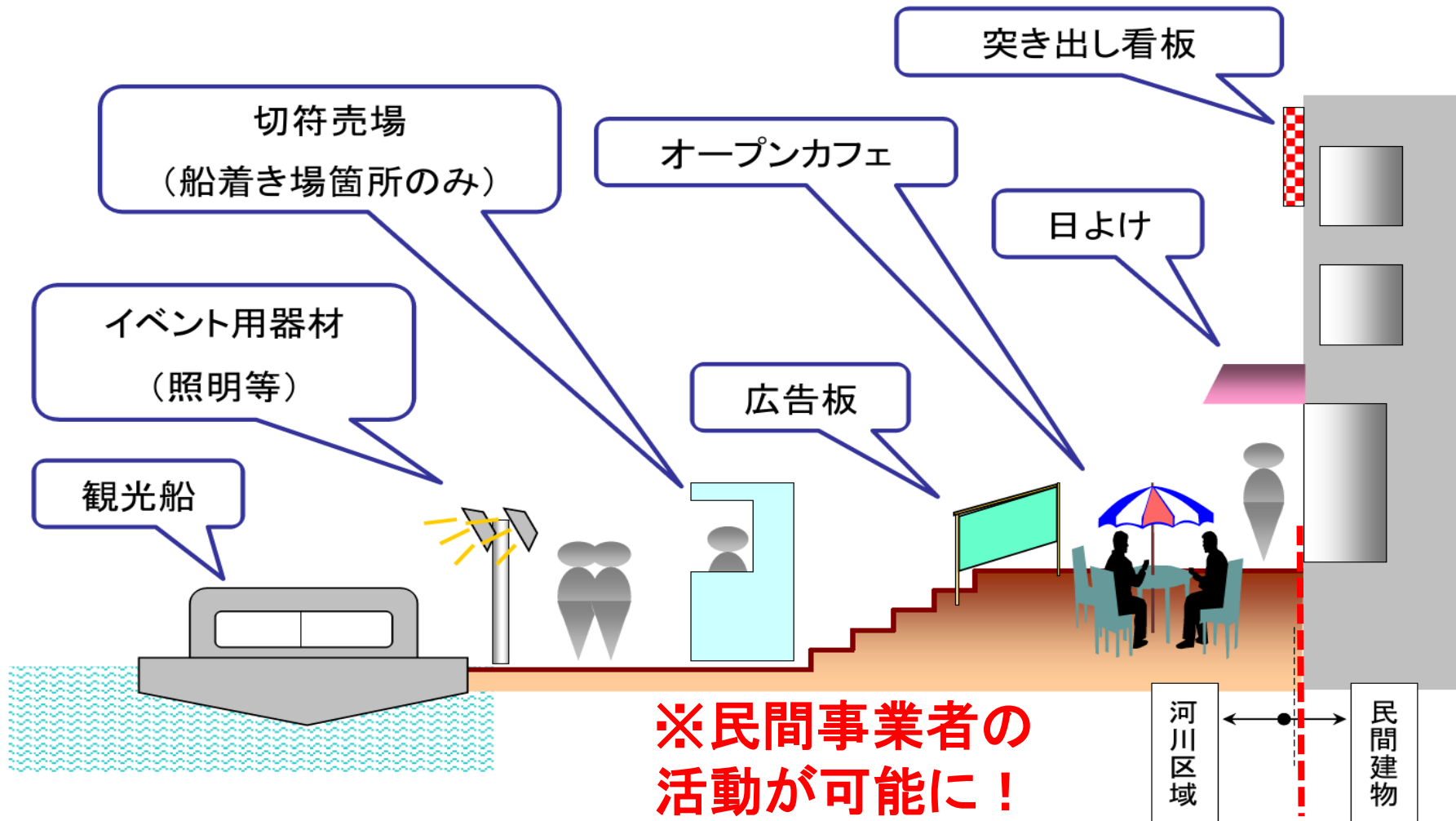
引用元：かわまちづくり計画策定の手引きp.20

1.3 河川空間のオープン化 概要

～河川敷地占用許可準則の緩和～

■H23.3の準則改正により、全国の河川で民間事業者が、飲食店、オープンカフェ、広告板、照明・音響施設、バーベキュー場等を設営可能に。

河川空間利用（占用施設）のイメージ



▲ オープンカフェ



▲ 観光船



広島県 京橋川 水辺のオープンカフェ

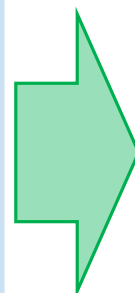
これまで

占用施設

公園、運動場、橋梁
送電線など公共的なもの

占用主体

地方公共団体、
公益事業者



「都市・地域再生等利用区域」に指定

占用施設

飲食店、売店、オープンカフェ、
広告板、照明、音響施設、
キャンプ場、船上食事施設など

占用主体

公的主体、民間事業者

2. 藤塚地区かわまちづくりのアイデア

まずは藤塚地区と閑上地区、将来的には貞山運河周辺地域全体が連携した利活用を目指す

広域連携、既存の施設・環境を活用するアイデア3つ

①舟運

②自然体験

③自転車

サイクリストを運ぶ渡し舟
(香川県小豆島)
BiCYCLE COLORブログより

サイクリスト
(仙台亙理自転車道)



③自転車
『仙台亙理自転車道』を中心とした
広域サイクリングルート構築

- ・ 自転車道とサイクルスポーツセンターの連携 (サイクリングイベントの実施など)
- ・ 各拠点施設にサイクルラックを設置
- ・ 名取川の渡し舟(藤塚-閑上)でサイクリストを運ぶ ←自転車利用者の閑上大橋通行の課題をクリア

①舟運
『貞山運河』を中心とした
舟運ネットワークを構築

- ・ 名取川渡し舟(藤塚-閑上)を復活
- ・ アクアイグニス仙台とかわまちてらす閑上を繋ぐ
- ・ 運河上下流への運航ルート拡張(将来)

②自然体験
『井土浦周辺の自然環境』を
活用したアクティビティ

- ・ 井土浦は日本重要湿地に指定、貴重な生息環境を形成
- ・ 仙台市は「自然に触れ合う場」として海岸公園(ネイチャーゾーン)の整備を行う方針
- ・ カヌー・SUPによる自然観察ツアーを実施
- ・ 水鳥などを観察する展望テラスを設置

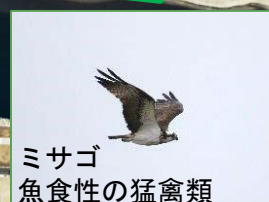
カヌー(自由使用)



SUP(S. Natori baseほか)



ミサゴ
魚食性の猛禽類



ハマシギ
海浜・干潟に生息



アカテガニ
干潟のヨシ原に生息



ニホンアカガエル
湿地に生息



凡例

舟運

自転車

震災関連

自然環境

観光



ゆりあげ港朝市

サイクルスポーツセンター

3. かわまちづくりの事例①

— 閑上地区かわまちづくり —

宮城県名取市、名取川水系名取川

東日本大震災からの再建を目指す閑上地区の復興計画と連携して、隣接する河川空間を整備し、かわとまちが一体となった賑わいのある水辺空間を創出した

取り組みの概要

- ① 検討段階の工夫 かわまちづくり検討会等を開催し、名取市の震災復興計画や閑上地区河川防災ステーション整備計画と連携して検討。
- ② 拠点施設「かわまちてらす閑上」R1.5オープン。まちづくり会社（株）かわまちてらす閑上を設立し、にぎわい創出の中心となる施設。
- ③ 舟運「ゆりあげ周遊船」 名取市の貞山運河舟運事業によりH30に運航開始。R3.11に「ゆりあげ丸」がお披露目され、R4年度より本格運航を開始（予定）。
- ④ SUP「S..Natori base」 堤内の市有地活用事業者として参画。名取川においてSUP体験教室を実施。
- ⑤ 評価「R3年度かわまち大賞」 全国で進められているかわまちづくりのうち、他の模範となる先進的な取組を表彰する「かわまち大賞」に決定。

< かわまちづくりによって整備された施設 >

凡例（整備主体）

国交省

名取市

閑上大橋上流右岸
親水護岸（スロープ）
高水敷整正
広場整備



主な整備施設



3. かわまちづくりの事例①

— 閑上地区かわまちづくり —

宮城県名取市、名取川水系名取川

- Point① コロナ禍においてオープンエアの開放的な環境が好評を得ている
- Point② 東日本大震災被災地の拠点施設の一つ、水辺を満喫する新観光スポットとして多くのメディアで取り上げられている。
- Point③ テラス前船着場 (R3.11完成)、SUP事業者の参画 (R2年度)、「ゆりあげ丸」の就航 (R3.11) など発展を続けている

かわまちてらす閑上によるイベント



テラスにステージを設置、階段護岸を観客席として利用 (R1ほか 水辺de乾杯!)



テナントによるオリジナル芋煮の販売イベント (R1~R3 IMONI-1グランプリ)



堤防天端を試走ルートとして活用するサイクリングイベント (R2~R3)



名取市による貞山運河舟運事業



かわまちてらす閑上の水辺テラスに新設された棧橋とゆりあげ丸 (R3船まつり)

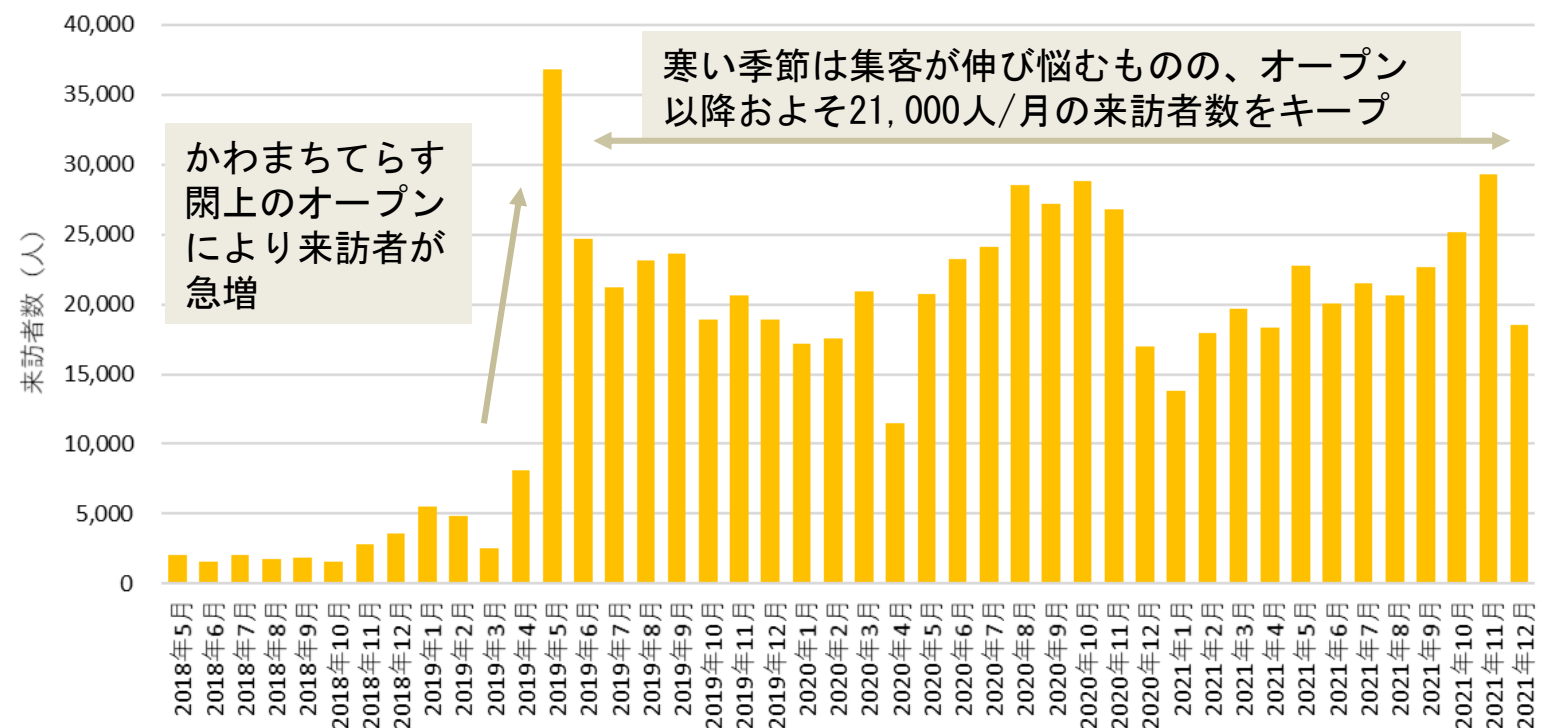
S..Natori baseによるSUP教室



SUP体験教室 (R2~、通年)

データ提供：KDDI・技研商事インターナショナル「KDDI Location Analyzer」
 ※ auスマートフォンユーザーのうち個別同意を得たユーザーを対象に個人を特定できない処理を行って集計

閑上地区かわまちづくり整備箇所 来訪者数推移 (推計値)



かわまちてらす閑上のオープンにより来訪者が急増

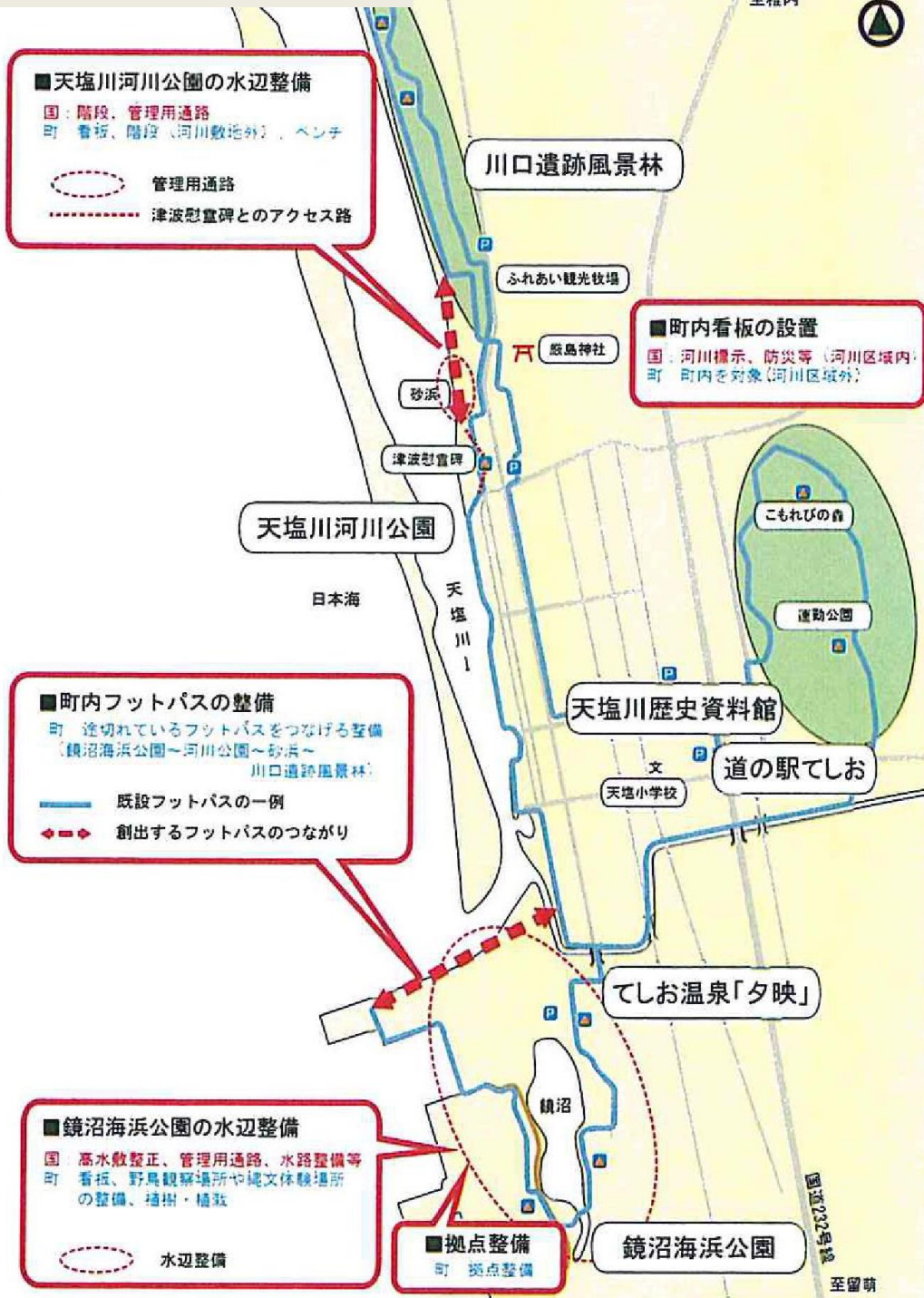
寒い季節は集客が伸び悩むものの、オープン以降およそ21,000人/月の来訪者数をキープ

「自然」「食」「歴史」「交流」をテーマに川と町が一体となった観光振興を通じ、新しい地域ブランドを確立し、地域振興の活性化を推進している

取り組みの概要

- ①検討段階の工夫 ワークショップ形式のかわまちづくり検討会のほか、天塩町の観光コンセプト「自然」「食」「歴史」「交流」をテーマとした分科会を設置している。
- ②自然環境 フットパス（遊歩道）沿いに鏡沼の原生植物や野鳥などの観察が楽しめる。フィールドワーク（フットパスを歩き、野鳥観察などをする）を定期的開催。
- ③カヌー
「ダウン・ザ・テッシェー・ペツ」 天塩川は河口から158キロメートルまでの区間は、川を横切る障害物がないことから、カヌーの適地として知られている。上流から河口までの間を下るカヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシェー・ペツ」が開催されている。
- ④体制 河川協力団体であるNPO法人 天塩川を清流にする会が植樹活動や占用物の日常的な維持管理・清掃を行うなど、町民ボランティア活動が活発に行われている。

かわまちづくり整備箇所



位置図



周辺施設



整備した施設



野鳥観察施設

天塩町地域おこし協力隊YouTubeより



イベント



鏡沼しじみまつり 幌延河川事務所webページより



天塩川カヌーツーリング大会「ダウン・ザ・テッシェー・ペツ」 幌延河川事務所webページより

3. かわまちづくりの事例③ — 十勝川中流域かわまちづくり —

北海道音更町、池田町、幕別町、十勝川水系十勝川

十勝川中流域（音更町、池田町、幕別町）には年間約220万人の観光客が訪れる。中流域の観光施設を結ぶサイクリングコースを整備し、周遊観光ルートの創出を目指す。

取り組みの概要

- ①サイクリング 十勝川沿いの観光施設を結ぶサイクリングコースを整備し、周遊観光ルートの創出を目指して取り組んでいる。
- ②カヌー・SUP 十勝川温泉旅館協同組合が「十勝ネイチャーセンター」としてアウトドアアクティビティを運営。整備区間上流側の公園に隣接する位置に親水護岸を整備予定。

かわまちづくり整備概要 (H30かわまちづくり計画登録時)

拠点施設



十勝ネイチャーセンター（十勝川温泉旅館協同組合アウトドア事業部）



十勝エコロジーパーク



魚道観察室ととろーど



千代田えん提公園

十勝ネイチャーセンターで行っているアクティビティ(夏)



リバーSUPツアー



十勝川カヌーツアー



十勝川ネイチャーツアー
・野鳥観察
・黒曜石（十勝石）探し

3. かわまちづくりの事例④ — 佐原地区かわまちづくり —

千葉県香取市、利根川水系利根川・小野川

小野川地区では重要伝統的建造物群保存地区の町並みや舟運について、本宿耕地地区では国と県と市によるPFI事業の中で佐原広域交流拠点（道の駅・川の駅）を整備した

取り組みの概要

小野川地区 江戸時代に水運で栄えた面影が残る重要伝統的建造物群保存地区として、歴史的景観を活かす整備が行われた。
（散策路・人道橋・街路灯の整備、「だし」の復元、護岸の修景・河岸の景観整備）

本宿耕地地区 国土交通省スーパー堤防の整備計画を契機とした、国・県・市による協働事業「佐原広域交流地点PFI事業—水の郷さわら」によって整備された。
水の郷さわら 施設構成 道の駅・地域交流施設：24時間使えるトイレ、情報施設、休憩所や香取市の地場特産品直売所、地場製品のフードコート
川の駅・水辺交流センター：市の水防施設の機能を備えながら、通常時には川に親んでもらうための施設



水の郷さわら 活動メニュー

観光船（水郷・利根川遊覧船）

自然観察・湿地

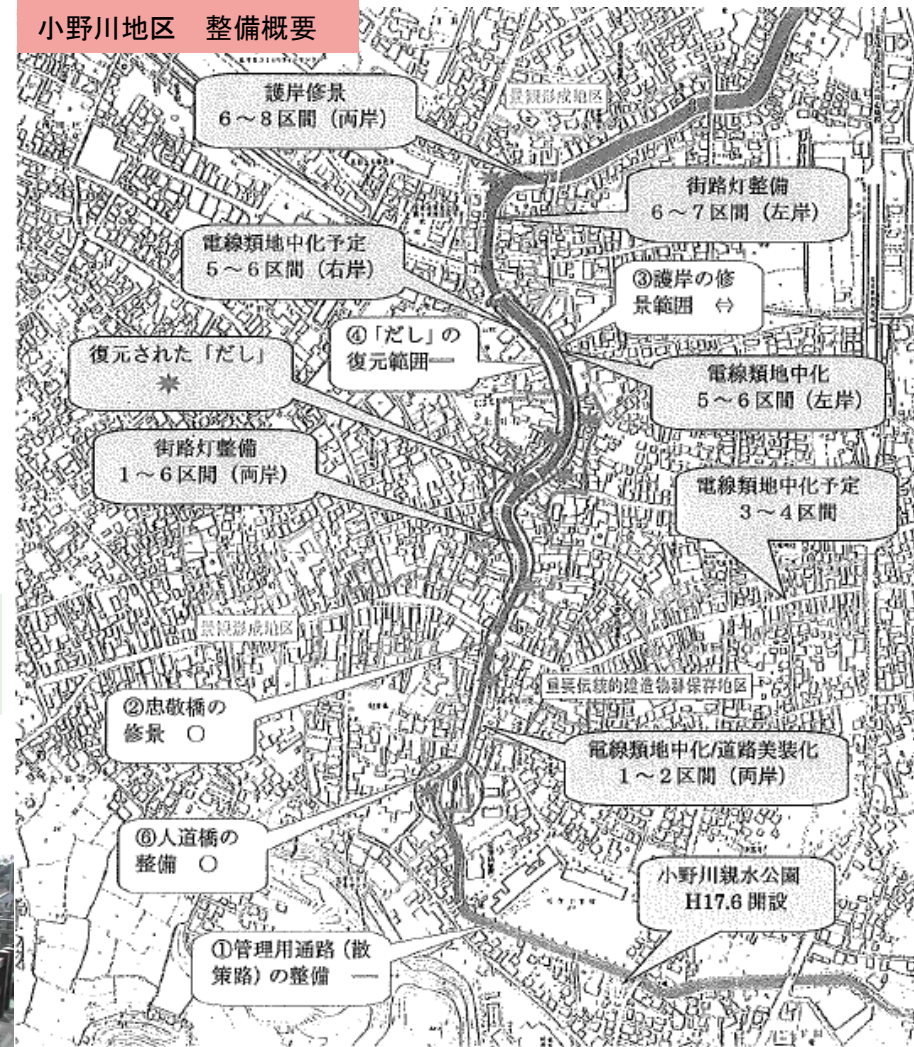
施設の下流には、貴重な水鳥が集うこともあるサンクチュアリが存在します。湿地は立入ることができませんが、観察用通路がありますので、生き物達の自然な姿を「そっと」ご覧ください。



湿地整備箇所の観察用通路で自然観察



小野川地区 整備概要



水の郷さわら 施設図



復元した「だし」
（階段状の荷上場）

小江戸さわら舟めぐり



佐原の大祭

